

令和7年度 第1回石川県農林水産試験研究評価 結果概要

番号	区分	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
1	事後	農試	「石川 f 11号（エアリーホワイト）」生産技術の確立	R4～R6	「エアリーホワイト」は従来の「エアリーフローラシリーズ」での休眠打破、球根冷蔵の条件では発芽不良や花下がりによる品質低下が発生し、促成栽培による出荷期間の拡大が難しかったが、「エアリーホワイト」に適した休眠打破技術や球根冷蔵技術を確立した。	A	①石川県のプロモーション活動に期待します。 ②市場のニーズに応えた開発であり、今後の需要の増加を期待します。 ③すばらしい成果だと思う。 ④経営負担が微少というのは素晴らしいと思う。 ⑤普及活動に努めていただくことを望みます。 ⑥休眠打破についての成果は評価できるが、生産者の要望に応えるだけでなく、新たな課題を発見して研究を行うべき。 ⑦生産技術の着眼点は大変良いと思う。その中で色々な手法を考えた上での研究成果は生産者にとっても取り入れが容易な点に希望が見える。	①関係機関と今後も連携し、県産オリジナル品種としての魅力を広く発信するよう努めていきたい。 ②市場ニーズを的確に捉えた技術開発を継続し、需要拡大につながるよう取り組みたい。 ③④⑦今後も生産者の導入しやすさを重視した技術開発を心がけていきたい。 ⑤農林総合事務所と今後も連携し、栽培管理情報や講習会等を通じて、技術の円滑な普及に努めていきたい。 ⑥現場ニーズに応えることを出発点に、そこで得られた知見を掘り下げ、より発展的な研究課題にも取り組んでいきたい。
2	事後	畜試	受胎率向上に向けた受精卵移植基準の実用化	R4～R6	石川県における受精卵移植の受胎率向上のため、移植する牛について、特に黄体の血流に着目して以下の研究を行った。 ①移植する牛における受精卵移植基準の設定、評価 ②移植基準を下回る原因を究明（血液検査、牛の体型評価）	B	①能登牛を増やして復興に貢献して下さい。 ②全国平均と比べても高い受胎率だったので、将来性のある研究だと思った。 ③倫理的な問題を感じる。 ④残された課題について、今後もしっかりと取り組んでいただきたい。 ⑤黄体の状態が良い母牛の作り方を教えてほしい。 ⑥成果が得られているように見えるが、実際にはコントロールとの有意差、指標の背景にある獣医学的根拠に乏しい。 ⑦研究内容はまだまだ奥深いものと感じた。化学的データと生物の自然な生命力との差はまだまだ研究を試して下さい。 ⑧黄体血流面積を直接測定した方が良い結果が得られないか？画像処理はそれほど難しくはないはず。移植基準の評価は統計的手法に基づいて判断した方が良い。	①②今回得られた成果を活用し、酪農経営の安定化に加えて、能登牛の増産に寄与してまいります。 ③受精卵移植技術は根幹的な技術として広く活用されております。また、本試験の実施にあたっては、動物実験規約に基づき、倫理面にも十分配慮しています。 ④⑤⑦黄体の状態が良好な母牛の育成方法については、摂取エネルギー、タンパク質代謝、活性酸素などに着目した飼養管理方法の確立を今後の課題とし、引き続き研究してまいります。 ⑥本試験では、統計的に明確な差は認められませんでした。評価項目を組み合わせることで有用な指標を得ることができたものと考えております。今後は、さらに現場への導入が容易な指標の設定を目指し、引き続き研究してまいります。 ⑧ご指摘のとおり、黄体血流面積を直接測定することで、より精度の高い評価が可能になると考えられます。一方で、現場での運用においては、手順の煩雑さが業務効率に影響を及ぼす懸念があるため、我々としても超音波機器のソフトウェア面での改良・アップデートに期待しております。
3	事後	林試	県産スギ大径材利用促進のための製材品の変形抑制技術の確立	R4～R6	県内のスギ人工林が成熟し大径材の利用が求められているが、大径材から製材した木材の反りや曲がり が課題となるため、以下について検討した。 ①人工乾燥工程での変形抑制技術の検討 ②変形挙動の長期モニタリング	A	①無垢の柱の需要のトレンドはどうなっているのか。 ②地震で新築住宅の状況がどのように変化してきているのか注視すべきと思う。 ③基準の取り方が充分ではない。長期モニタリングも必須である。 ④長期的なモニタリングのサンプル数が少ない気がしました。統計的な解析が今後必要だと思う。 ⑤計画は妥当でよかった。研究も悪くなかったが、本当に芯去りで使うのが疑問。母屋等での使用に留まるのでは。 ⑥大径材の利用促進を期待します。 ⑦従来の芯去り材は反るという概念を覆す素晴らしい技術だと思う。 ⑧コストアップになることは少し懸念されますが、利用普及拡大に向けて、より一層の取り組みをお願いします。 ⑨今回は研究の現物を見ることができとても参考になった。研究をするにあたって、色々な機械を使っでの取り組み方も、実際に説明を受けることによって大変さを感じた。	①新設住宅着工戸数の減少に伴い柱材全体の需要も減少傾向である。しかし一戸建て住宅の木造率は非常に高く、特に大手ではない地域工務店では無垢の柱を使用する傾向が高い（林野庁資料）。本県においても地場の工務店は無垢材を採用していることから、今後も需要が期待できる。 ②ご指摘のとおり、震災後の新築住宅の動きが活発化している。使用部材の動向を含め状況を注視し、本研究成果の活用促進を図りたい。 ③④⑧基準（試験条件）の設定は、先行事例や県内乾燥施設の現状を参考に限られた予算の範囲で設定した。結果として得られた基準内のデータでの説明が十分ではなかったが、試験結果は、現場で受け入れやすいものになったと考えている。また、長期モニタリングについては、残存する試験サンプルについて、引き続き実施しており適切に評価してまいります。 ⑤住宅業界における心去り柱材の評価が芳しくないのは否めないが、無垢の柱材生産は大径材丸太から複数生産することは避けられない状況である。本研究成果の活用を通して、心去り柱材は木造住宅の構造材として安心して使用できることを普及して参りたい。